

KMバイオロジクス『古着deワクチン』の取り組み（熊本）

TKU テレビ熊本



熊本市北区の製薬会社『KMバイオロジクス』が古着を発展途上国に送る取り組みに参加しました。

古着の再利用だけでなく、世界の貧困地域にワクチンなどが送られるということです。

KMバイオロジクスの会議室に山積みされているTシャツ。全部、社員から寄付された古着です。

【和田 浩志 総務専任課長】

「今回5日間、集めていてこの5倍の量があります」

これらのTシャツは『古着deワクチン』という取り組みに送られます。

着なくなった服を寄付することで、発展途上国に送られて再利用されるだけでなく、NPOを通じて貧困国の子どもたちにポリオワクチンが届けられる活動です。

貧困や格差を改めようという持続可能な開発目標『SDGs』を目指す取り組みでもあります。

これまでにおよそ2900万着分が再利用され、およそ350万人分のワクチンが寄付されています。

インフルエンザや新型コロナのワクチンの開発や製造を行うKMバイオロジクス。

社員有志で作るサステナプロジェクトチームが企画に賛同して社内に呼びかけ、着なくなったTシャツが集まりました。

【永里 敏秋 社長】

「ワクチンに換えて後進国の子どもに接種してもらえるのはワクチン製造販売している企業としては重要な取り組み」

永里社長もおおよそ70人いるチームの1人で今回、Tシャツを寄付しました。

5日間行われた活動は最終日のこの日だけでもこれだけの量の古着が集まりました。

【発起人 松岡 岳人さん】

「うれしいです。何千枚レベルで集まるとは思いませんでしたし、全社一丸となったらこれだけのパワーがあると分かった」

今回の取り組みで集まった古着は2000枚を超え、KMバイオロジクスでは「今後も継続して行くとともにSDGsについて社員一人一人が自分のこととして取り組む環境を作りたい」としています。